

## うめ

「うめ」は農薬取締法上、「小粒核果類」に分類されているので、「うめ」または「小粒核果類」「果樹類」に適用のある農薬が使用できる。

———— 発病・加害時期  
 ===== 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地				開花			収穫						
黒星病 かいよ病 灰色かび病 アブラムシ類 カイガラムシ類(ウメシロカイガラムシ) クビアカツヤカミキリ													
コスカシバ アメリカシロヒトリ ハダニ類													

## 黒星病

### 留意事項

- SDHI剤 (7)、QoI剤 (1 1) は耐性菌が生じやすいので1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- せん定時に病斑のある枝を切除する。
- 4月中旬～5月上旬の感染期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ **オーソサイド水和剤80** M4 【小粒核果類 800～1,000倍 21日／3回】
- 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ **トリフミン水和剤** 3 【2,000倍 14日／3回】
  - ・ **トップジンM水和剤** 1 【小粒核果類 1,000～1,500倍 21日／3回】
  - ・ **ストロビードライフロアブル** 1 1 【2,000～3,000倍 7日／3回】
  - ・ **パレード15フロアブル** 7 【小粒核果類 2,000～3,000倍 前日／2回】

## かいよう病

### 留意事項

- 風当たりの強い園で発生しやすい。

### 防除方法

- 防風垣、防風網を設置する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 被害枝はせん定時に切除する。
- 3 展葉初期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [マイコシールド](#) 4 1 【1,500倍 21日／4回】

## 灰色かび病

### 防除方法

- 1 発生が見込まれる時期(落弁期)に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ベルコート水和剤](#) M 7 【2,000倍 30日／3回】
  - ・ [スイッチ顆粒水和剤](#) 9 1 2 【3,000倍 45日／2回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [ファンタジスタ顆粒水和剤](#) 1 1 【3,000倍 前日／2回】
  - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1,000～1,500倍 45日／2回】

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 葉巻後は防除効果が低いので、発生初期に散布する。
- 2 ピレスロイド剤 (3 A) は散布後の高温乾燥で早期落葉を助長することがあるので注意する。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2,000～6,000倍 前日／3回】
  - ・ [アクタラ顆粒水溶剤](#) 4 A 【2,000～3,000倍 7日／2回】
  - ・ [コルト顆粒水和剤](#) 9 B 【小粒核果類 2,000～4,000倍 前日／3回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【3,000倍 前日／2回】

## カイガラムシ類

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - (1) 休眠期
    - ・ [スプレーオイル](#) UNM 【30～50倍 発芽前／－】
    - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7～10倍 発芽前／－】
  - (2) 幼虫発生期 (ウメシロカイガラムシ:4月下旬～5月中旬及び7月中～下旬、タマカタカイガラムシ:5月下旬)
    - ・ [アプロードフロアブル](#) 1 6 【カイガラムシ類幼虫 1,000倍 7日／2回】
    - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2,000倍 前日／3回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## クビアカツヤカミキリ

### 留意事項

- 1 幼虫は樹木内部を食い荒らし、枯死させる。食害は5～6月に最も盛んになる。
- 2 成虫は6月～8月頃に出現し、幹や樹皮の割れ目に産卵し、10日前後で卵が孵化する。
- 3 幼虫の食入した穴から出るフラス(かみ砕いた木くず・糞・樹脂の混合物)は、うどん状でこのフラスがある穴には幼虫がいる可能性が高い。フラス排出部位は、地表に現れた太い根から2mまでが多いが、3m以上の高い場所の場合もある。
- 4 キルパー40を使用するにあたっては、加害された伐倒木を集積したものまたは枯損木に、所定薬量を散布し、直ちにビニールシート等で密閉し所定時間くん蒸する。くん蒸処理にあたっては、ガス化効率を十分確保するため日光の当たるところを選ぶほか、被覆するビニールシート等が風によりめくれないようにシートの裾は十分土等でおさえる。

### 防除方法

- 1 成虫は見つけ次第、捕殺する(6月～8月)。
- 2 株元から2m程度の高さまで4mm目ネットを二重、もしくは0.4mm目ネットを一重に巻き付け、羽化した成虫を閉じ込める。巻き付ける際は、上端、下端には隙間ができないように固定し、樹幹部はネットと幹表面の隙間を空ける。成虫がネットをかみ切ったり隙間から脱出したりする場合がありますので、ネット設置後も定期的に見回り撲殺する。
- 3 うどん状フラスを見つけたら、フラスが出ている穴に千枚通しや針金等を入れ、フラスをかき出してから下記の薬剤を注入する。
  - ・ [ロビンフッド](#)、[ベニカカミキリムシエアゾール](#) 3 A
  - 【カミキリムシ類 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射 前日/5回】
- 4 成虫発生初期に下記資材を地際に近い主幹の分枝部等に架ける。
  - ・ [バイオリサ・カミキリ](#) —【果樹類 カミキリムシ類 1本/1樹 成虫発生初期/—】
- 5 成虫発生期に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A【2,000倍 前日/3回】
  - ・ [ダントツ水溶剤](#) 4 A【2,000倍 前日/3回】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) 2 2 B【1,000倍 前日/3回】
  - ・ [テッパン液剤](#) 2 8【小粒核果類 2,000倍 前日/2回】
- 6 被害の大きい樹や枝は9月～翌年3月の間に伐採・伐根し、破碎、焼却もしくは下記薬剤でくん蒸処理することにより適切に処分する。
  - ・ [キルパー40](#) 8 F
  - 【うめ(伐倒木、枯損木) 被覆内容積1立方mあたり原液750～1,500ml —/1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合がありますので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合がありますので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## コスカシバ

### 防除方法

- 1 食害が盛んな3~4月頃及び収穫後に虫糞を出しているところを目標にナイフなどで樹皮を削り中の幼虫を捕殺する。
- 2 成虫発生初期(4月)にフェロモンディスペンサーを設置する。
  - ・ [スカシバコンL](#)
    - 【果樹類 40~100本/10a(8g/100本製剤) ディスペンサーを対象作物の枝に巻き付け設置する。成虫発生初期~終期/ー】
- 3 秋季に下記の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。
  - ・ [フェニックスフロアブル](#) 28 【200倍 開花期まで/1回】
- 4 越冬期に下記の薬剤を樹幹部及び主枝に散布する。
  - ・ [ガットキラー乳剤](#) 1B 【100倍 休眠期(落葉後~萌芽前)/2回】

## アメリカシロヒトリ

### 防除方法

- 1 発生初期に幼虫が群生する葉を処分する。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [フェニックスフロアブル](#) 28 【ケムシ類 4,000倍 前日/2回】
  - ・ [デルフィン顆粒水和剤](#) 11A 【果樹類 ケムシ類 1,000倍 発生初期(前日)/ー】
  - ・ [アクセルフロアブル](#) 22B 【ケムシ類 1,000倍 前日/3回】

## ハダニ類

### 防除方法

- 1 休眠期(萌芽前)に下記の薬剤を散布する。
  - ・ [石灰硫黄合剤](#) UN 【落葉果樹 7~40倍 萌芽前/ー】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [マイトコーネフロアブル](#) 20D 【小粒核果類 1,000~1,500倍 3日/1回】
  - ・ [ニッソラン水和剤](#) 10A 【3,000倍 7日/2回】
  - ・ [コロマイト乳剤](#) 6 【小粒核果類 1,000倍 前日/1回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。